

FADO

6

Abril 1995

月田秀子ファド倶楽部

TSUQUIDA HIDEKO FADO CLUBE JORNAL

D

月田秀子の昨日、今日、明日…

「他人のために歌いたい」 去る3月4日の東京でのファド倶楽部のライブの際に、私が発した言葉らしい。らしいというのは、甚だ無責任なことなのだが、私の記憶にも、考え方のどこにも、その言葉は存在しないのである。それを聞いた友人は、「恋でもしたのか、はたまた、新境地を開いたのか…」と小首をかしげたという。不特定多数の人たちのためでなく、ここにいるあなたのために、という意味であったなら、想像つかないこともない。私が歌うのは、他人のためではない。決してない。

この度の大震災で、身近な人々の悲しみ、打ちひしがれた姿を眼前にした時、ファドを歌うことが一体何になるのかという問いが私の頭の中を占拠し、私を容赦なくたたきのめしたことは否めない。自分が悲しい時は、それを振り払うように雄々しく吠え

ることもできる。「何よりも辛いのは、泣く友を見る時」 ジャック・ブレルのシャンソンにそんな歌があった。歌いながら涙をおさえることができなかった。そんな日が続いた。歯痒い思いの中で、悶々とした日々を過ごしていた。

先日、東京でのライブに来てくださったKさんからこんなお手紙をいただいた。「…人間は、しばしば、他者のためと思ってしたが、実は自分のためであったり、自分のためばかりに生きてしまったと思うところが、人を支える役もさせてもらっていた、と気付くものではないでしょうか。機会があつて、あまり力まずにできることに巡りあえた時は、月田さんならきつと、自然に他者のために動いていらっしゃるでしょう。でも、それを第一目的に置くと、かえって違ってきってしまうかも知れません…」

Kさん、ありがとう。肩の力を抜いて、精一杯歌います。悲しい時は泣けばいい。苦しい時は、泣いてなんかいられない。両の足踏ん張って、へこたれるもんか。ファドの一つも歌えばいい。

ensaio

月田秀子の
ポルトガル紀行①ーアルガルヴェ編
〈1988年初夏〉

5月20日、女子大生たち12人とアルガルヴェに2泊3日のバス旅行に招待される。ミス女子大生コンテスト第一次選考会で歌ったご褒美である。口紅を塗るのが彼女たちの唯一の化粧、全員素顔美人である。ポルトガルではほとんどの女性が化粧をしない。しかも、足の毛は剃るが、顔には決して刃を当てな

い。ときどき男性と見まごうばかりの髭を生やした女性に遭遇することもある。時たま、厚化粧をした女性を見るが、男に媚びを売っている証拠として、同性は冷ややかな感情を持っているようだ。もしくは、オカマだったりする。

と言っても、人は人、それぞれが好きなようにしたらいいのであって、日本のように、白い目など向けない。そういえば、陰口を聞いた覚えがない。何か言いたいことがあれば、堂々と人前で言う。それが理にかなっているのか、正しいのか正しくないのか、言葉のわからない私には理解できないが、自分

の感情、意見を吐露することにかけては、全く堂々としている。一言でいえば、自己主張が強いということである。相手の弁を聞く耳持たずで、それぞれが勝手に喋るものだから、声はエスカレートし、やがてはすさまじい騒音となり果てる。それでいて人間関係がこわれのないのだから、うらやましい国民性である。

道端には、赤、黄、紫、白の花々が咲き乱れ、それらの花に誘われるように、華やかな一行を乗せたバスは、一路、南の地アルガルヴェへと向かう。

初めてのポルトガル人との団体旅行になるのだが、彼らがいかに時間に無頓着であるかを確信する旅であった。集合時間が1時間は、ずれるのである。帰る頃になると腹も立たなくなり、成り行きに任せるしかないや、と姿に悟った気分になってくる。そんなわけで、pequeno almoço(朝食)が昼の1時過ぎになり、almoço(昼食)が4時、jantar(夕食)が10時頃と、ずれ込むはめになる。誰も文句も言わない。2日目、昼食をとるために山荘に向かう途中の休憩の時も、予定時間を15分ほど過ぎたところでやっと姿を現したかと思うと、待っている私たちを後目に、花の女子大生たちは一目散に浜辺へ下りて行き、服を脱ぎ捨て、あっという間に海へざんぶりである。呼びに行った引率者までが、一緒に海へざんぶりなのだからお話にならない。昼過ぎの炎天下、待ちぼうけの私は、お蔭でこんがり焦げてしまった。

懐かしい lagos (なぜ懐かしいのか、それはまたの機会に……) で朝を迎え、部屋から見える赤い灯台に誘われるように、崖の上の一面の麦畑を30分ほど走った。いわゆるドナ・アナ海岸へ出た。能登の蘇洞門も顔負けの浸食ぶりである。しかし、全く暗さがない。鷗を追いかけるように崖を歩いた。誰もいない断崖の上に立った時、一瞬、このまま死のうと思えば死ぬるんだな、と思った。急に目がくらつき、金縛りにあったように動けなくなった。数セン

【お知らせ】 CD「月田秀子ジャンジャンライブ」増盤分ご希望の方は、「月田秀子ファド倶楽部」事務局まで、郵便振替にてお申し込みください。

◆定価：2,800円 送料：400円

◆口座番号：00990-6-18440

◆加入者名：月田秀子ファド倶楽部

チ先に、生と死の境界線があった。

どれほどの時が経ったのか、それはほんの1分にも満たなかったのかも知れない。すぐ下を通り過ぎる漁船のモーターの音がした。漁師が二人、じっと前方を向いて乗っている姿が目に入った。その時、やっと私は崖っ淵から解放された。逃げるように崖から遠ざかり、平地に出た時、余裕を取り戻した私は、覚えたての『FOI DEUS』(さながら神の)を口ずさんだ。

「私にはわからない。誰にもわからない。なぜ私はファドを歌うのだろうか。悲しみと涙の滲むこの調べ。ありとある不幸と苦難に身を委ね、なぜ私はファドを歌うのだろうか。それはわからない。誰にもわからない。ただこの内なる魂が、自分の歌う言の葉に安らぐのを覚えるのです」

声は少しずつ大きくなっていった。私はいつもの元気な私に戻っていった。

海から吹いてくる風は夏を想わせた。夏が始まる頃、私はこの国をあとにする。一体、私はどこへ行くこうとしているのだろうか。何かを呼ぶように鳴きながら、一羽の鷗が、大きな影を落として頭上を飛んで行った。

★ファド倶楽部の会員でもある角幡春雄氏が、『ぼるとがる遊記』(新潮選書)を出版されました。歴史・文化面での氏の洞察の深さと、人間への温かいまなざしを痛感しました。司馬遼太郎氏の『街道をゆくシリーズ23 南蛮の道』(朝日文庫)と合わせて、ポルトガルの歴史に興味のある方のご購読をお勧めします。

春宵一刻値千金の夜

—ファドコンサート in MY BUNNY—

東京にはめずらしく大雪情報の出た3月4日、久しぶりに月田さんに会えるとあって、会場は定員オーバーで、はちきれそう。悪天候で心配したキャンセルもわずか2名、今度は飲食物が足りないのでは、という心配に変わる、うれしい誤算でした。天気予報がはずれたのか、月田さんや会員の皆様の情熱で溶けたのか、雪は降らずに雨となり、そのうち止んでしまいました。

この日、足立区の女性フォーラムの会で、たいへ

読切連載
秀子のエピソード帖

【その4】

月田秀子TV初出演

内間 天馬

去る12月上旬、NHKの人気番組「人間マップ」に月田さんが登場。翌1月4日の再放送時は、フアド倶楽部の黒田清会長が、当日の日刊スポーツのご自分のコラムで月田さんを熱く紹介したせいもあり、34.5%という驚異的な視聴率を記録。これは約3千8百万人もの人間が見ていたという換算になるんだそうです。日本の人口の約3分の1ですぞ。しかも番組終了後、「月田秀子って何者だ？」という問い合わせがNHKに山のように殺到し、NHKの電話回線がパンク。事態を重視したNHKは緊急の役員会を開き、月田秀子を今年の紅白歌合戦に出演させる方針を内定したという噂です。

片や民放も黙ってはいませんで、音楽番組、たとえば「ミュージックフェア」「タモリの音楽は世界だ」「オーケストラがやってくる」「題名のない音楽会」「夢で逢いましょう」などなど、続々と出演依頼が殺到。音楽番組だけじゃなくて、ドラマ「東芝日曜劇場」だの「火曜サスペンス劇場」だのに女優としても出演依頼があったりして。ま、月田さん

んな反響を呼ぶフアドコンサートを終え、息つく暇もなく六本木へ駆けつけて来た月田さんには、昼間の公演の確かな手応えに満ちた余韻を、あの大きな黒い瞳にいっぱいたたえた、ある種の興奮が感じられました。少しの間、そっとしておいてあげたい思いました。

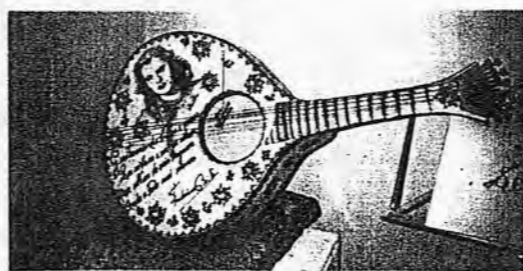
月田さんにはお気の毒でしたが、すぐに着替えてもらって店の中央へ——。いつものように照明を落として、マイクなしで歌い始めました。

会場の皆様ひとりひとりが月田さんのフアドの世界に引き込まれ、そのゆったりとした、時には哀切なサウンドの流れの中に、心身を委ね、静かにワイングラスを傾けつつ楽しんでいらっしやる様子に

は昔、女優をやったことがありますからね。変わったところで関西TVのお天気おばさんにならないかとか、MBS「素人名人会」の審査員をしないかとか、タケシの番組でバニーガールをやらないか、などなど。ま、マスコミの影響はきわめて大でありますね。

それにしてもこの「人間マップ」は、月田さんの日常の音楽生活やフアドへの思い入れなど、たいへん上手に伝えていたように思います。歌の練習は自転車に乗りながら……なんていう場面はとても素敵でしたし、全編通じて彼女の穏やかな表情が印象的でした。TVというのはどこで誰が見ているかわかりません。新鮮なミュージシャンを常に探し求めている音楽プロデューサーなど、必ずいるものです。上記のような大騒ぎは、ま、アホなジョークだとしても、質のよい音楽番組にはどんどん出演してもらいたいものです。

ところでこの「人間マップ」再々放送なんてないんですか、NHKの方？ まだ見ていないあなた、ビデオ借りて早よ見いや〜。



胸をなでおろしたのも京の間、アンコールの声で、急に我に返りました。彼女自らギターを抱いての弾き語りは、美しい絵を見ているような錯覚を起こしました。

今回は不慣れな係を担当しましたので、月田さんの歌に、心が集中できなかったことが悔やまれます。今後は東京での演奏の場をもっと増やして、一人でも多くの方々に月田さんの歌を聴いてもらうにはどうしたらよいか、今回の反省点も含めて、検討していかなければならないと思っております。

会員の皆様のご協力に感謝し、併せて、今後とも会の発展のため、皆様と共にがんばっていきたくと思っております。（突然の実行委員・鈴木 邦）

informação

月田秀子のスケジュール

★4月16日の「こんにちは！ポルトガル」では、帰国したばかりの月田秀子さんによる料理講習を企画しました。ポルトガルのホットな話題なども飛び出してくるのでは……。
乞う、ご期待！
皆様のご参加をお待ちしています。〈詳細は下欄参照〉

- 毎週木曜日 大阪/心斎橋「麓鳴館」
4月20日、27日
5月11日、18日、25日
TEL.06-241-9219 ①8:00～ ②9:00～
- 4月16日(日) 大阪/淡路・クレオ大阪北「こんにちは！ポルトガル」
第一部(15:00～16:30)ポルトガル料理とワインを楽しむ。
講師：月田秀子！！
会費：2,000円(限定40名様・要予約)
第二部(17:00～18:00)阪神大震災のためのチャリティーコンサート
会費：2,500円(当日3,000円)ポルトガルワイン付き
*予約・問い合わせ・主催：SORA TEL.0798-34-7486(清水まで)
*予約・問い合わせ：建築フォーラム事務局 TEL.06-229-8510
- 4月21日(金) 大阪/淀屋橋「クリスタルホール」1994年度建築フォーラム記念講演会
*予約・問い合わせ：建築フォーラム事務局 TEL.06-229-8510
- 4月24日(月) 大阪/心斎橋「アートクラブ」
TEL.06-253-0827 8時から、3回ステージ(入替なし)
- 4月26日(水) 大阪/千里「阪大医学部学友会館こけらおとしファドコンサート」
TEL.06-879-3471 7時開演、無料
- 4月28日(金) 京都/四条河原町「巴里野郎」
TEL.075-361-3535 8時から、3回ステージ
- 5月21日(日) 大阪/守口・エナジーホール「La Muse Festa」
板橋文夫トリオ(JAZZ)他と〈チラシ参照〉
入場料/前売：2,800円 当日：3,300円
*チケット申し込み：守口文化センター TEL.06-992-1276
- 5月26日(金) 京都/四条河原町「巴里野郎」
TEL.075-361-3535 8時から、3回ステージ
- 5月29日(月) 大阪/心斎橋「アートクラブ」
TEL.06-253-0827 8時から、3回ステージ(入替なし)

編集後記 何かと慌ただしい数カ月間でした。阪神大震災に心を痛め、しかし静かにする時間もなくてスケジュールに追われた月田さんの毎日でした。当倶楽部事務局では今までの世話人会を発展的に解消、新しいメンバーも加わって、新体制で活動を支えていくことを決めました。でも現実にはヨチヨチ歩きの事務局運営です。本誌を皆様にお届けするのも久しぶりとなりましたが、今後は季刊誌として年4回の発行となります。今回からは新連載「月田秀子のポルトガル紀行」がスタート、書き手としての彼女の非凡な才能にもご期待ください。(M)

●原稿募集！

会員の皆様からの投稿を募集します。テーマは自由、ファドと直接関係なくてもかまいません。短いものも歓迎します。事務局までお送りください。

■月田秀子ファド倶楽部ジャーナル第6号
■1995年4月15日発行(季刊誌：年4回発行)
■編集・発行「月田秀子ファド倶楽部」事務局
■〒542 大阪市中央区高津3-14-8-1001
■TEL. FAX. 06-645-4717